# 旧岡山県農学校 現高松農業高校地域向け情報誌

第 41 号 平成20年1月23日 発 行 元

高松農業高校

086-287-3711

086-287-3713

岡山県立

tel

fax

【ハートフル・スマイル・コンサー

ŀ

館ゆるびの舎において、本校吹奏楽部と郷土芸

去る十二月二十三日(日)、早島町町民総合会

能部の、第八回ハートフル・スマイル・コンサ

今年は 僕たちの年なのだ

過ごすことができた。両部とも、このコンサー

してくださったお客様と共に、

心に残る時間を

来

どの部員も日頃の練習の成果を発揮し、

トを行った。

トを境に新たな一歩を踏むことになるが、今回

向けて頑張っていきたい

のコンサートで得たことを生かして、

来年度に

## 年頭の挨拶

渡邊領治

す。新しい生命が創造されるように新しい出来は、陽気の到来と物事の増殖を意味していま 事が繁栄するという意味があり、「子(ね)」 護者の皆様、地域の皆様には、健やかに新年を つちのえ)」には、植物が繁栄するように物 ほしいものです。 ^が起こる、今年がそんな活力のある年になっ 今年の干支は戊子(つちのえ・ね)です。「戊 )迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。 新年明けましておめでとうございます。

てもらいたいと思っています。 業や進級に向けての一年間の仕上げの時期で とを話しました。三学期は短い期間ですが、 伸ばす」ことにチャレンジして欲しいというこ す。生徒達には、今の自分をしっかり見つめて、 して、楽しみながら自分の「いいところを引き 道な努力を積み重ねながら一歩ずつ前進し いくことと、授業以外のことに積極的に参加 卒

いです。 ]け、御意見や御要望をお寄せいただければ幸 本年もどうぞよろしくお願い申し上

高松農業高校地域向け情報誌

### 朝礼台

三学期始業式では、生徒達に授業を大事に

づくりを推進していきたいと考えています。 する大切な時期です。 本校の強みを生かしつ つ、学校の独自性を発揮しながら特色ある学校 ・課題を検証しながら、平成二十年度の準備を :までの様々な活動や取り組みをまとめ、成果 皆様方には、高松農業高校のさらなる発展に また、私たち教職員にとっても、三学期はこ

## 【社会人講師活用事業】

月十日(木)三年生に向けて、三井造船株式会平成一九年度社会人講師活用事業として、一 の講演をして頂いた。 講師に迎え、「 社会人になる心構え」について 社 玉野事業所 総務部課長補佐 渡部一成氏を

を知り、これからの就職準備や生活態度につい ていただき、社会人としての常識やルールなど ての意識を高めた。 人材像や社会人としての心構えについて講話し 企業の採用担当者の立場から、企業が求める





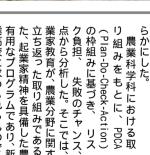






農場の南に、創立 110 周年の記念事業 として、南門が完成した。 今後 校内まで大型車が入ることが出 大幅な時間短縮が可能となる。





た、起業家精神を具備した農業経営者を育成す 立ち返った取り組みであることを指摘した。 業家教育が、農業分野に関する職業教育の原点 業高校に求められるものであることを指摘した。 有用なプログラムであり、新しい時代における農 点から分析した。そこでは、農業高校における起 キャリア形成の 観



正剛

# 資料館が「国の登録有形文化財」

に

**農業高校における** 

原敬一・佐々木正剛両教諭が特選を受賞した。平成一九年度教育研究論文において、本杉の

貴重な建物であると評価され、 りの壁と、かやぶき屋根との組み合わせが特異で ンス積み」と呼ばれるめずらしい積み方の煉瓦造 して、二〇〇七 (平成一九) 年六月には、「フラ った。 現在は学校内で唯一残る戦前の建築物とし や農機具等を展示保管する資料館としてよみがえ 周年記念事業の一環として改修し、学校関係資料 科の実習室として使用され、一九七七年創立八〇 年頃まで堆肥舎として使用された。その後、 登録された。 て、卒業生、在校生、 (明治四二)年に建てられ、一九六五(昭和四〇) 旧岡山県立農学校だった一九〇九 教職員に愛されている。 国の登録文化財に そ



## 高等学校農業教育における 起業家教育の有効性に関する研究」

佐々木



ア教育推進地域連絡協議会」を設立し、 校)で実践について理解を深めるために「キャリ

実践例と

企

・タル

その教育的効果を共有した。外部講師(大学、

敬

特色あるキャリア教育の取り組み」高校における

農業高校において、専門

A科:農業経済・農業科学科 H科:園芸科学科 Z科:畜産科学科 B 科:生物工学科 E 科:農業土木科